

第2章 財務分析の基本的手法

本日のテーマ

- ①財務分析の手法（期間分析と時点分析）
- ②比較分析（同一企業比較と企業間比較）
- ③実数分析（運転資本等）と比率分析（流動比率等）
実数分析にはCVPや付加価値分析も含まれる
比率分析は前回行った利益率など%で表示される分析である
- ④総合評価とは
 - ①～③は部分評価
 - 企業全体の評価が必要
 - 経営事項審査との関係

①財務分析の手法（期間分析と時点分析）

（伝統的概念）

B/S → 一定時点の財政状態 → 静態分析

P/L・CF → 一定期間の経営成績・CF → 動態分析

（本来論）

本来の動態分析→B/SでもP/Lでも時系列分析（前期比較等）をすることにある

※静態分析は1期間のF/Sを分析すること

②比較分析（同一企業比較と企業間比較）

★会社設立→1年目のF/S（自己単一分析）

（経営者の気持ち）他の新規設立企業と比較したい

→企業間比較分析・クロスセクション分析

★2年目→前年比較をしたい（自己比較分析）、他の企業との比較も継続したい

※標準原価計算や予実管理なども自己比較分析でしょう

★5年目→急成長

GAAFと比較したい→ベンチマーキング

③実数分析（運転資本等）と比率分析（流動比率等）

財務分析	実数分析	単純（控除法：差額分析→貯金と借金）
		比較増減（期間比較：家計の昨年との比較）
	比率分析	関数均衡（相互の関係を使用→CVP）
		構成比率（家計に占める食費）
		関係比率（収益性・活動性・流動性・健全性・生産性）
		趨勢比率（新婚時代を基準にしよう）

実数分析にはCVPや付加価値分析も含まれる

比率分析は前回行った利益率など%で表示される分析である

④総合評価とは

ここまでの話は部分評価 → 企業全体の評価が必要 → 経営事項審査との関係

難しい話はいいでしょ

レーダーチャート・指数法・効果法くらいは押さえた方が良く（記述で作文可能）

<レーダーチャート例>

格闘家（ジャイアント馬場とアントニオ猪木・・・古い）

ゴルファー（石川遼と池田勇太）本当は松山英樹との比較がみたい



(alba の HP より)

経営事項審査を考慮すると、本来は経営資源（人・モノ・カネ・情報）を分析する必要があるはず。経営規模（完成工事高や自己資本）、経営状況（各種財務指標）、技術力（種類別人員や種類別元請完成工事高）、社会性（福祉・法令遵守・公認会計士などの数）。

佃製作所が建設業ならどうなるのだろう、なんて想像するのも面白いかもしれない

経営分析全般を学習したい方は、中小企業診断士もしくは i t コーディネータの学習がよいです。

<では小川と一緒に練習問題にチャレンジ>

2.1

構成比率→ある数値を 100 とした場合の各要素の構成比率を分析する

具体例→貸借対照表：例えば資産合計を 100 にした時の流動資産の割合

損益計算書：例えば完成工事高を 100 にした場合の経常利益の割合

実務上広く採用されている理由→企業規模にかかわらず比較分析が行えるから

2.2

実際に実施しましょう

2.3

これは総合評価の時に行おう

※参考→ビジネス会計検定分析における関係比率分析の種類
安全性 (=流動性+健全性)・収益性 (活動性を含む)・一人当たり分析 (生産性)